

4頭のチーター (*Acinonyx jubatus*) における A 型インフルエンザウイルス感染事例
○植田美弥¹, 笛吹達史², 山口剛士², 東野晃典¹, 野村美佳¹, 有馬一¹, 村田浩一¹ (¹横浜市立よこはま動物園, ²鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター)

1 目的

横浜市立よこはま動物園 (以下ズーラシア) で飼育しているチーター (*Acinonyx jubatus*) 全 4 頭が呼吸器症状を示し元気消失した。本種が発症する 9 日前から飼育担当者 3 名がインフルエンザを発症していたことから、本症の感染を疑い遺伝子検査による同疾患ウイルスの検出を試みた。

2 材料および方法

症例個体は、ズーラシアで飼育中のチーター♂2 頭と♀2 頭で、いずれも 6 歳の成獣であった。2019 年 1 月 28 日より♂1 頭と♀1 頭に発咳、動作緩慢、食欲低下が見られ、1 月 30 日になると残りの 2 頭にも同様の症状が認められた。餌皿のスワブ、その他寝室に落ちていた痰などの試料から RNA を抽出し、A 型インフルエンザウイルスの NP および M 遺伝子を標的としたワンステップ RT-PCR を行った。

3 結果

最初に発症し症状が軽かった 1 頭を除く 3 頭の試料中から A 型インフルエンザウイルスの NP 遺伝子が、2 頭の試料中から M 遺伝子が検出された。また、市販の迅速診断キット (エスプラインインフルエンザ A&B-N®) を用いてスワブ液を検査したところ、微弱ながら 1 頭の試料で陽性反応が認められた。

4 考察

A 型インフルエンザウイルスが多様な動物に感染することは知られており、チーターについては、アメリカで本種の餌を扱う職員からの AH1pdm 感染例 (4 頭) がある。今回、飼育担当者からウイルス遺伝子が検出されなかったので確定できないが、状況証拠からヒト-チーター間の感染が強く疑われた。